

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
 廃炉加速化研究プログラム（日英原子力共同研究）
 事後評価総合所見**

研究課題名：高汚染吸着材廃棄物の処理処分技術の確立と高度化 代表研究者（研究機関名）：稲垣 八穂広（九州大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：佐藤 修彰（東北大学） 英国側研究機関：シェフィールド大学 研究期間及び研究費：平成27年度～平成29年度（3年計画） 56百万円			
項目	要 約		
1. 研究の概要	<p>福島第一原子力発電所の廃炉作業で発生する主要な廃棄物の一つとして、各種の吸着材廃棄物が挙げられ、その安全で合理的な処理・処分には、最適な安定固化処理方法の確立が必要である。このため、廃棄物の安定固化処理方法に関する基礎研究を進めている英国側実施機関（シェフィールド大学、インペリアルカレッジロンドン）との共同研究により、各種吸着材廃棄物の安定固化処理方法について、固化体の製造容易性と貯蔵・処分時の性能（減容率、核種固定化率、熱的特性、化学的耐久性、等）を含めた総合性能の観点から体系的に検討評価し、安全で合理的な処理・処分のための最適な処理方法及び処理条件を提案することを目的とする。</p> <p>1) 吸着材廃棄物溶融ガラス固化体の各種性能評価と総合評価 2) 吸着材廃棄物の溶融ガラス固化条件と固化体基礎物性評価</p>		
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 10%;">A</td> <td> <p>・汚染水処理により発生する吸着材廃棄物の安定固化、処理方法の開発について、オーソドックスなアプローチながら基礎基盤研究を着実に実施しており、廃棄物の処理処分技術のオプションの一つとなることに期待が持てる。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p> </td> </tr> </table>	A	<p>・汚染水処理により発生する吸着材廃棄物の安定固化、処理方法の開発について、オーソドックスなアプローチながら基礎基盤研究を着実に実施しており、廃棄物の処理処分技術のオプションの一つとなることに期待が持てる。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>
A	<p>・汚染水処理により発生する吸着材廃棄物の安定固化、処理方法の開発について、オーソドックスなアプローチながら基礎基盤研究を着実に実施しており、廃棄物の処理処分技術のオプションの一つとなることに期待が持てる。</p> <p>S) 極めて優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>		